

I 急病のときの対応

11. やけどをしたとき

家庭での処置

1. できるだけ早く冷やす(10分~20分)。できれば流水(水道水を流しっぱなし)で。衣服の上からやけどした時は無理に脱がさずその上から冷やす。
2. やけどの部位をおおって保護する。ビニール袋や食品用ラップを使うと便利。しめつけないようにゆったりおおう。水ぼうがができて破かない。やけどした皮膚をむいたりしない。
3. 原則として軟膏を塗ったりしない。

その後の対応



家庭で経過をみる、又は翌日に病院受診

やけどの部位もせまく(本人の手のひらよりせまい)、少し赤くなっている程度で痛みも軽い。



その時点で病院受診

乳児のやけど。痛みが激しくおさまらないやけど。黒くなっているやけど(コンセントに指を入ると炭化したやけどになる)。関節部分のやけど。やけどの範囲がひろい(本人の手のひらよりひろい)。



緊急に病院受診、救急車要請

意識がはっきりせずぐったりしている。広範囲のやけど(からだの3分の1以上)。